

東京商船大学八回生クラス会

平成30年10月24日(水)降雨予報を覆し日本晴れとは云えぬまでもそこそこの好天に恵まれ東京商船大学八回生の面々がホテルナビオス横浜に集結、恒例のクラス会が始まった。出席者は38名それに4名のご夫人方に加え総勢42名、1430時例年のカメラマンN2西岡君が体調不良で不参加となり昨年度からカメラマンに指名されたN2安田君による全員集合写真撮影からクラス会が始められた。

今年度主幹事N1横田君に依る開会の挨拶に続き昨年のクラス会以降の物故者N2故松原吉宣君、N2故甲賀貞夫君及びクラス会欠席の葉書を寄越したばかりのE2故石井政喜君の御三柱の御霊に黙祷を捧げた。そして元学長N2杉崎君から母校・海洋会の近況報告及び母校の現東京海洋大学基金即ち「海洋大基金・修学支援事業基金への寄付のお願い」が披露され、引き続いて同君の発声で参加各員及び今回欠席の諸君のご健勝とご多幸を祈って乾杯、宴が開始された。

一頻り挨拶の交歓、或いは一段と質を高めたホテルナビオス横浜の心尽くしの料理に舌鼓を打ったりした後各クラス一名ずつのショートスピーチに移った。

N1クラスは遙々布哇からとんぼ返りで参加した海野君。N2クラスは神戸から参加の小宮君、E1クラスは中山君、E2クラスは小谷君とそれぞれ近況報告に所感を加えてショートスピーチとは云えない重厚なスピーチが続いた。

中でも小宮君からは受付時に予め全員に配布されていた「練習船日本丸航海日記」について説明があり、其れによると58年前の昭和三十五年帆船日本丸によるニューヨーク遠洋航海の際、実習の合間を縫ってコツコツと書き溜めた日記に基づいて整理、私費にて上梓されたものとか。その余りに精細な記述内容に全員驚嘆、殊に日本丸に同乗していたボンクメートに取っては当時の青春時代の思い出が一時に押し寄せ暫し感慨に耽ることとなった。此の本は母校、海洋会を始め、現在横浜みなとみらい地区に保存されている国指定重要文化財「帆船日本丸」その他各方面に寄贈されたとの由、海洋会会員各位、若し機会が有れば是非ご覧になって下さい。

その後は宇部から参加のE1吉田君、又一言有るべき面々、或いは無理矢理指名された面々のスピーチ、間にE2小谷君指揮による寮歌「ああ月明は淡くして」及び「白菊の歌」の斉唱、更には、「初代練習帆船日本丸」の横浜誘致の立役者でもあったN2安田君による「帆船日本丸」大修理に際しての浄財募集の案内等を交え会は最高潮に盛り上がりましたがあっという間に時間は過ぎ、副幹事N1立石による閉会の挨拶に続き、来年度幹事E1仁藤君からは来年度のクラス会は中華街で行いたいとの計画披露が有り名残は尽きねど再会を約して1700時お開きとなりました。

その後一部の面々約20名は横浜マリクラブに移動、カラオケ主体の二次会に時間を忘れ、又更に一部の有志9名は翌25日N2小宮君手配の伊豆伊東の温泉寮で三次会と洒落込む等、全員が傘寿を迎え乍らクラスの三分の二が平均寿命を超えて存命である事に感謝し、別れを惜しんだ事でした。

(立石健三 記)

出席者氏名(☆印は夫人同伴)

N1	秋山章八	海野一水	☆岡田 實	小野政美	神村正剛	高木義人
	☆高品 満	田川俊一	立石健三	早津義彦	日笠 徹	松原邦雄
	横田皓二					
N2	東 義明	☆井上 彪	臼居 勲	大羽純昭	☆加藤 信	草野了輔
	小宮 赴	近藤 學	杉崎昭生	鈴木俊二	長谷川清	安田岩男
	結城建輔	奈良邦宏				
E1	吉田 健	中山 修	仁藤直嗣	藤野健馬		
E2	青木 将	小谷 傳	川住哲夫	藤井省吉	三塚康典	宮島重夫
	森田英介					

以 上